新見公立短期大学紀要　第25巻
pp. 11－21, 2004

論　稿

奈良女子高等師範学校附属幼稚園の保育の実際(2)
―昭和18年度四之組保育日誌を中心に―

高月　教恵

幼児教育学

Practice of the Infant Education of the Kindergarten Attached to the Nara Women's Advanced Teacher-Training School (2)
—Through the Infant Education Diaries in the Year of 1943—

Norie TAKATSUKI

（2004年11月10日受理）

昭和18年度の奈良女子高等師範学校附属幼稚園の保育の実際について、昭和18年度四之組保育日誌を中心に考察した結果、一日の流れは、午前中保育では、「登園―自由遊び―会集―課程保育（５項目）－自由遊び－帰宅準備―散園」、午後までの保育では、「登園―自由遊び―会集―課程保育（５項目）―課程保育（５項目）―昼食―自由遊び―帰宅準備―散園、あるいは、登園―自由遊び―会集―課程保育（５項目）―自由遊び―昼食―自由遊び―帰宅準備―散園」と考えられる。保育の内容としては、保育５項目を基盤として、会集、自由遊び、行事、生活訓練に関するもの等が行われていた様子がうかがわれる。日々の保育では、教師が中心となって画一的に指導していた様子がうかがわれ、特に会集では、画一的・訓練的な様子がうかがわれる。昭和13年度に比べて、保育５項目の取り上げられた題材が少なくなったのは、会集の時間が長くなったためと考えられる。保育内容においても、当時の社会的背景から戦時色の濃さが感じられが、空襲警戒警報発令時においても、入園当初以外は通常どおり保育が行われていた様子が記されている。自由遊びでは、子どもの自発性や主体性が尊重されていた様子もうかがわれ、子ども自らが育とうとする力を信じ、子どものすこやかな成長を願っての保育が行われていた様子も垣間見られる。そして、なによりも、子ども達が幼稚園で楽しんで活動していた様子が伝わってくる。

はじめに

筆者は、先の研究[1]で、昭和13年度奈良女子高等師範学校附属幼稚園の保育の実際について、「昭和13年度四之組保育日誌」を中心に考察した。その結果、一年間は３学期に分けられ、一日の流れとしては、「午前中保育では、登園―自由遊び―会集―課程保育―自由遊び―帰宅準備―散園」、午後までの保育では、「登園―自由遊び―会集―課程保育―課程保育―昼食―自由遊び―帰宅準備―散園」と考えられる。保育の内容としては、保育６課目を基盤として自由遊び・会集・行事等の保育要目と、諸注意及び反省・練習事項・国家的事項の訓練要目を柱立てに、保育が行われていた様子がうかがえる。主に、日々の保育では、保育６課目の個々の充実に重点をおきながら、教師が

中心となって画一的に指導されていた様子がうかがわれる。さらに保育6課目については、課目の複合的な取り扱いや、一題材の各課目の視点からの取り扱いや、植物の成長や行事にしたがっての一連の流れがうかがわれる。この活動の流れは、各課目の充実をはかりながらの季節や行事等に添っての一連の流れと考えられ、倉橋惣三の誘導保育と言うよりも、課程保育重視の保育と言えるのではないだろうか。当時の主事である森川正雄は、保育の柱として訓練要目と保育要目をあげ、その必要性を説いている[2]。昭和13年度奈良女子高等師範学校附属幼稚園の保育の実際は、この森川正雄の保育論との関係が非常に深いと考えられる。保育要目においても訓練要目においても、君が代（唱歌）、天長節（唱歌）、日本の兵隊（遊戯）、支那事変絵本（談話）、戦争ごっこ（自由遊び）、靖国神社遥拝式（行事）、宮城遥拝等の保育題材から、当時の戦時色（昭和12年日中戦争勃発）がうかがわれる。しかし、日誌からは、子ども達の生き生きとして園生活を過している様子が伝わってくる。

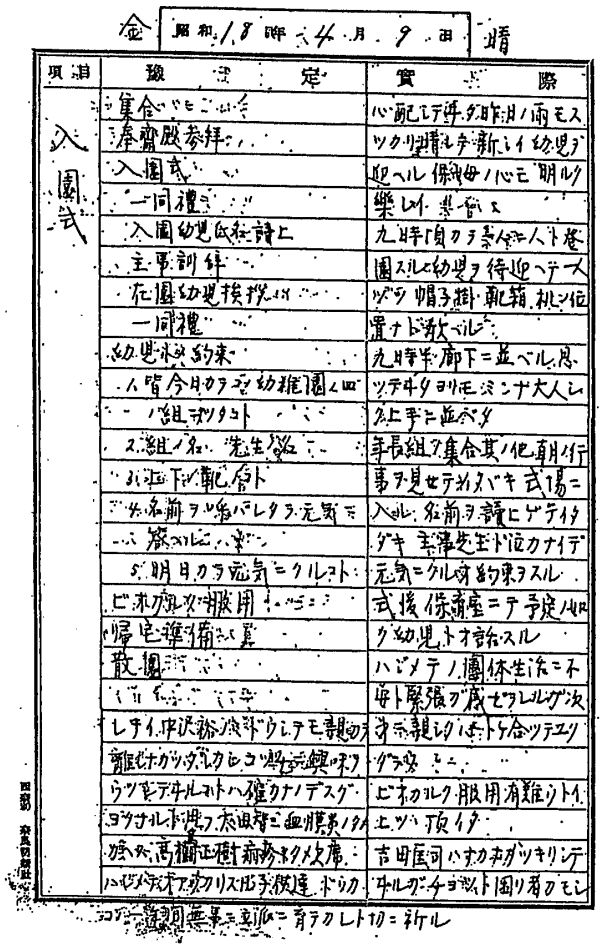
本稿では、昭和18年度の奈良女子高等師範学校附属幼稚園では、どのような保育が行われていたのかを、「昭和18年度四之組保育日誌」から読み取り考察する。

昭和18年度四之組保育日誌は、横の罫線入りの用紙に、万年筆で記されている。そして、年月日・曜日・天候が記載されている。昭和13年度の日誌では、曜日と天候が記載されている文字の上に当時の主事の印が押されていたが、昭和18年度の日誌では、印は省略されている（図1参照）。

昭和18年度四之組保育日誌は、昭和13年度の日誌に比べて、9月の終りから所々抜け落ちている部分がある。附属幼稚園の80周年記念誌に、「昭和20年、事態が非常に緊迫していたにもかかわらず、休園することなく保育は続行された」と記されていることから、途中で紛失したのか、あるいは昭和18年の社会的背景としては昭和16年に太平洋戦争が勃発し昭和19年4月には東京都では幼稚園閉鎖令が出されるなど非常に戦時色の濃い緊迫した状態であったと予想されることから、日誌は特に書く必要な日のみに限って記載されたのではないか思われる。

1．昭和18年度の当園の状況

奈良女子高等師範学校附属幼稚園が幼児保育を開始したのは大正元年11月1日であり、同月25日より本校第4学年の生徒の教育実習を開始している。森川正雄は大正3年9月4日から昭和14年8月29日まで第二代目主事を務め、その後日田権一学校長が主事事務取扱いを兼任し、次いで小川正通が昭和16年3月31日から昭和27年8月31日まで主事を務めている[3]。昭和18年度の園児数は162名[4]であり、昭和13年度と同様、二年保育4組・一年保育3組の計7組であると考えられる。本稿で取り上げる「四之組保育日誌」に、子ども達が昭和18年4月9日入園式に参加し翌年3月20日終了式に参加していることが記載されていることから、四之組は一年保育であると考えられる。


金 昭和18年4月9日 晴

項目	豫定	實際
入園式	集合	心配シテヰタ昨日ノ雨モス
	奉齋殿参拝	ツクリ晴レテ新シイ幼児ヲ
	入園式	迎ヘル保母ノ心モ明ル
	一同禮	樂シイ集會ス
	入園幼児紹介	九時頃カラ親ニ人ト巻
	主事訓辞	園スルト幼児ヲ待迎ヘテ入
	在園幼児挨拶	ツタ帽子掛・靴箱・机ノ位
	一同禮	置ナド教ヘル
	幼児ト約束	九時半廊下ニ並ベル恩
	八時今日カラ幼稚園ノ四	ツテキタヨリモミンナ大人シ
	一ノ組ヲツタヨト	く上手ニ並ベタ
	二組ノ名・先生紹	年長組ノ集合其ノ他朝ノ行
	お辞儀・靴脱ぐト	事ヲ見セテ教ヘバキ武場ニ
	名前ヲ呼ンデ呼バレタラ元気ニ	入ル名前ヲ讀ニヒテイタ
	返ス	ダキ主事先生ト応カナイデ
	明日カラ元気ニクルコト	元気ニクル約束ヲスル
	ピヤノ・オルガン・服用	式後保育室ニテ予定ノ如
	帰宅準備	ク幼児トオ話スル
	散園	ハジメテノ園体生活ニ不
		安ト緊張ヲ感セラレルケ次
	レテイ・中沢・[illegible]	[illegible]
	[illegible]	[illegible]
	ウツセテヰルコトハ確カナノデスケ	ビヤノカルク・服用・消毒ノト
	ヨウナル下準ヲ・太田・[illegible]	[illegible]
	於ケル高橋・[illegible]・新参ヲクメ文庫	吉田・[illegible]ハオカヰガツキリシテ
	ハジメテオアズカリスル子供達ト・ドウカ	ヰルガ・チヨツトト困リ者カモシ

図1　日誌原本

保育課目については、大正15年に幼稚園令及び同施行規則が制定され、それに準じて当園規則も改正され、従来の「遊戯、唱歌、談話、手技」に「観察」、「図画」の２課目が加えられた[5]。昭和17年に当園規則が改正され、保育課目を保育項目と改め、保育項目の唱歌を音楽に、手技の中に図画を含めた[6]。したがって、当時の保育項目は「遊戯、音楽、談話、手技、観察」と考えられる。

２．保育の実際

１）一年間の流れ

一年間の流れをみると、４月９日（金）入園式から７月20日（火）終業式、７月21日（水）から8月31日（火）まで夏休み、９月１日（月）始業式から12月24日（金）終業式、12月25日（日）から１月７日（金）まで冬休み、１月８日（土）始業式から3月20日（月）終了式である。昭和13年度に比べると、入園式が３日早く、２学期の始業式が10日早く、３学期の始業式が２日遅く、終了式が2日遅くなっている。

２）一日の流れ

①保育時間

保育時間は、４月は午前中保育、５月は17日（月）から弁当が始まり週５日は弁当があり土曜日のみ午前中保育である。７月は５日（月）から午前中保育となり、９月も同様に１日（水）の始業式以後９月18日（土）まで午前中保育で、９月20日（月）から弁当が始まり土曜日のみが午前中保育である。以後、11月から３月までは月曜日から金曜日まで弁当があり、土曜日のみが午前中保育である。しかし、行事の場合は変更されている。昭和13年度に比べると、5月の弁当始まりが一週間遅く、９月の弁当始まりが二週間早くなっている。登降園の時間については、入園当初は9：00や8：30頃登園、9：30や9：00点鍾などと記されているが、昭和18年度の日誌には、行事等で特別に変更があった場合（６/19等）以外はほとんど時間については記されていないことから、昭和13年度と同様に、午前中保育では8：30～9：00頃に登園し11：30頃に散園、弁当ありの保育では13：30～13：40頃に散園していたのではないかと考えられる。

② 保育の流れ

午前中の保育の流れをみると（表１参照）、「登園―自由遊び―会集―課程保育（５項目）―自由遊び―帰宅準備―散園」となっている。登園後すぐの自由遊びは外遊びが主だったと考えられる。その後、点鍾・会集である。その後入室して、５項目の保育項目の1項目が画一的に行われている。子どもの活動が一段落したところで自由遊びに入

表１　入園当初の保育の実際

月日	４月９日（金）晴	４月１０日（土）晴	４月１２日（月）曇後晴	４月１３日(火)晴	４月１４日（水）晴	４月１５日(木)晴後曇
実際	9：00頃から登園 一人づつ帽子掛・靴箱・机の位置などを教える 9：30廊下に並べる 年長組の様子(集合・奉斎殿参拝など)みせてただく 式場に入る 入園式 一同礼 入園氏名読上 主事訓辞 在園児挨拶 一同礼 保育室で約束ごとの話 組名 先生名 上下の靴のこと 点呼 明日から元気に登園 ピオカクク服用 散園	8：30頃から登園 自由遊び（砂いじり） 9：30点鍾 1.名前順整列 2.会衆に出る 会集 1.神社参拝 2.直立姿勢躾る ラジオ体操 本校奉安殿参拝 二人づつ手つなぐ 二列で歩く 奉安殿の意義の説明 幼稚園の子になることを誓う 本校の一部をしらしめる 11：00過ぎ、幼稚園に帰る 今日の行事・躾の整理 帰宅準備 ピオカルク服用 散園	自由遊び 9：00点鍾 整列の練習(廊下) 会集(遊戯室) 整列 神様おまいりの挨拶 .気をつけ・やすめのおけいこ ラジオ体操 .行進 .休息 お話 1.椅子のかけ方 2.昨日のこと 3.挨拶のこと 4.先生のお話に「ハイハイ」いわぬこと 5.神様のおがみ方 6.お手紙を渡す ピルカルク服用 帰宅準備 散園	自由遊び 保育料其の他費用及び防空用頭巾あずかる 会集 整列 参拝 国民体操 行進練習 園内案内 幼稚園内をしらしめる。.出入り許可禁止を教える。自然観察せしめる 自由遊び（砂場） 帰宅準備 1.椅子のかけ方 2.返事 3.挨拶について 4.神様のおがみ方 5.ピルカルク服用 散園	自由遊び 会集 1.整列 2.神社参拝 3.朝の挨拶 4.ラジオ体操 5.行進練習 西側遊園案内 遊具の使用法話す 自由遊び(遊具) ラジオ体操練習 帰宅準備 1.昨日からのお躾 2.領収書(後援会会費)渡す 3.ピオカルク服用 散園	自由遊び 会集 1.整列 2.おまいり 3.ラジオ体操 4.行進 保育室へ 絵本の扱い方説明 一人一人絵本を見る 外遊び 帰宅準備 1.躾 2.ピオカルク服用 3.パン配給 散園

表２　６月第三週の保育の実際

月日	６月１４日（月）雨	６月１５日(火)曇	６月１６水)晴	６月１７日（木）曇	６月１８日（金）雨後晴	６月１９日（土）曇
実際	自由遊び 会集 補欠入園幼児入園式 小川主事の話 保育室へ 既習練習唱歌遊戯 （雨・オタマジャクシ)を補欠入園児(4 人)に見せてあげる 談話(紙芝居) ピョンチャンノオツカヒ・オムスビコロリン (補欠入園児帰宅) 昼食 観察 蚕(マユ作り) 帰宅準備 散園	自由遊び 会集 手技(描き方) 自分や先生の観察 色々子どもと話す 先生という題で描かせる 自由遊び 昼食(補欠入園児参加) 自由遊び 帰宅準備 散園	自由遊び 会集 遊戯 既習練習 新授「お舟」 自由遊び 昼食 自由遊び 観察(朝顔) 朝顔を見て描く 帰宅準備 散園	自由遊び 会集 音楽 聴覚訓練「ハホト・ハヘイのお遊び」 既習唱歌練習 自由遊び 昼食 自由遊び 帰宅準備 散園	自由遊び 会集(雨のため遊戯室 保育室へ 唱歌 蛍コイコイ 既習唱歌 音名視唱練習 談話 鬼と山羊 自由遊び(雨のため室内) 積木・絵本など 昼食 自由遊び(晴てきたので外遊び) 帰宅準備 散園	自由遊び(母の会開催のため母が一緒) 会集(母親参観) 保育室へ 談話 神話第二回 「八俣ノ大蛇」 唱歌 既習練習 自由遊び(遊戯室で母の会のため遊園に出ず保育室) 摘み紙など 公会堂へ行く(母の会が終って 12 時頃) 昼食 遊戯（母親参観） 15：00 過ぎ　解散

っている。この時の自由遊びは、ほとんど外遊びであったようである。その後帰宅準備をし、散園である。帰宅準備では、毎日ビオカルクを服用させている。これは当時の食糧事情から、子ども達の健康を考慮して、与えられていたと考えられる。さらに、お便り等を配布したり、子どもの状態や時間をみて諸注意を与えたりなどしている。

午後まで（弁当ありの日）の保育の流れを見ると（表２参照)、「登園―自由遊び―会集―課程保育（５項目）－課程保育（５項目）―昼食―自由遊び―帰宅準備―散園、あるいは、登園―自由遊び―会集―課程保育（５項目）―自由遊び―昼食―自由遊び―帰宅準備―散園」となっている。登園・自由遊び・会集は午前中保育と同じであるが、その後は入室して５項目の保育項目の２項目を続いて保育したり、保育項目の１項目のみを行って自由遊びをしている。これは、子どもの活動時間によるためとも考えられるが、昭和13年度にはほぼ毎日２項目の課程保育をしていたことから考えると、会集の時間が長くなったため（表１参照）と言えるのではないだろうか。その後は昼食であり、昼食後は自由遊びをしている。１項目の課程保育の場合は、その後自由遊びをして昼食に入っている。昼食前後の自由遊びについても、天気のよい日は外遊びが中心であったと考えられる。そして帰宅準備をして散園している。帰宅準備と帰宅までの間は、午前中保育と同様であったと考えられる。

３）保育内容

昭和18年度四之組保育日誌を、日を追って保育題材に視点をあてて読み取っていくと、表３[7]のようになる。4月から７月（１学期）の保育題材をみると、保育５項目を基盤として自由遊び・会集・行事・諸注意等生活訓練に関するもの、その他があげられる。

各項目の内容について考察する（表３参照)。

① 保育５項目

遊戯

例えば、4月では「整列練習、ラジオ体操練習、行進練習、集合隊形整列、汽車、普通行進、防空訓練、整列・二列行進団体訓練、最敬礼練習、」５月では「行進練習、鯉幟、金太郎、普通行進・爪立て・作円、宿替え、おたまじゃくし、奈良公園園外保育おたまじゃくしスクヒ・ボートレース競争遊戯、軍艦、軍艦マーチ、」６月では「並び方練習、行進練習、歌に合わせて玉回し鬼当て遊び（遊、音）雨、防空演習ごっこ、競争遊戯三･四･五合同、ボートレース、さがしもの当て、舟、ハホト･ハヘイ聴覚訓練遊び（音･遊)、曲にあわせて駆足（遊)、輪抜き競争（遊)、ハホト音名取り遊び（音・遊)」、７月では「花落し遊び（遊)、サガシモノ遊び(遊)、四人並んで歩き練習（遊）ラジオ体操、行進練習、談競争遊戯「イス取り」(遊)、ハンカチ落し（遊)、砂場あそび（遊)」である。

このことから、遊戯は、整列練習、ラジオ体操練習、行進練習、集合隊形整列、普通行進、

表3　保育題材（一年保育年長組）

月	保育題材　(遊)は遊戯、(音)は音楽、(観)は観察、(談)は談話、(手)は手技の略
4月	園内奉齋殿参拝、帽子掛・靴箱・机の位置指導、入園式、ビオカルク服用、自由遊び（遊具の使い・絵本の扱い方・絵本・鬼ごっこ）、整列練習（遊）、会集（整列直立姿勢躾・気を付けのけいこ・神社参拝・朝の挨拶・ラジオ体操・行進）、君が代の練習（音）、本校奉安殿参拝(立派な幼稚園の子の誓)、お話（椅子のかけ方・挨拶・話の聞き方・神様のおがみ方）、ラジオ体操練習(遊)、パン配給（週一回）、奈良公園園外保育（遊・観・団体訓練整列・二列行進）、行進練習（遊）集合隊形整列（遊）汽車(遊)普通行進（遊）、挨拶躾、桃太郎（談）、当番神域の清掃、身体検査（胸囲・体重・身長・座高）、諸注意、最敬礼練習、防空訓練、靖国ノミヤシロ（談）、靖国神社臨時大祭、本校植物園園外保育（観）、天長節祝賀式稽古、感興誘発（談）、チューリップ（音唱）、僕は軍人（音唱）、天長節祝賀式、自由画描き方（手）、諸注意、既習練習事項
5月	自由遊び（スベリ台・サクラサクラの遊び・ママゴト遊び・遊戯・兵隊ごっこ・砂遊び・ブランコ・かけっこ・おたまじゃくし観察・朝顔水やり・裏山で遊ぶ・お客様ごっこ・絵本・蚕観察）会集（整列・神社参拝・朝の挨拶・ラジオ体操・行進）、本校開校記念式、ビオカルク服用、「人」５分間鉛筆画（テストのため）、行進練習、鯉幟（遊・音・談・観・手）、金太郎（遊）端午の節句会（話・鯉幟とつばめ(談)）、若草山遠足（雨のため中止）、兜折り（手）、パン配給（週一回）、五月人形（観・談・手・図）、大詔奉際日（神域清掃・国旗掲揚）、普通行進・ツマ立て・作円（遊）、宿替え（遊）、蟻（観・談）、図画鑑賞、おたまじゃくし（遊・観・談・音唱）、整列の稽古（遊）、朝顔種まき、朝顔（談）、鳩（手擢ミ紙・音）、指の歌（音）、神話第一回「天照大神」（談）、金魚のひるね（音）、昼食躾、遊園清掃、奈良公園園外保育（遊おたまじゃくしスクヒ・図昨日印象画）、朝顔水やり、朝顔（観）、ボートレース競争遊戯（遊）、蚕（観・談）、国旗掲揚（青少年御勅語御下賜きの記念日）、軍艦（音・遊・手擢ミ紙・観）、自由折り方（手）、二艘舟に乗っていく姉弟の話（談）、身体検査、海軍記念日（日章旗と日の丸を持って軍艦マーチ（遊））、手向山八幡様・念仏堂参拝園外保育、粘土第一回目（手）、自由積木（手）、正倉院庭園外保育（遊・観）、花壇・動物舎の観察、既習練習事項、諸注意
6月	自由遊び（蚕に桑やり・アサガオ水やり・竹のぼり・絵本・積木・軍艦作り・砂場・運動遊具・砂場トンネウ鉄橋・一拍飛び・擢み紙・草つみ・セミトリごっこ、神域清掃）会集・粘土軍艦（手）、並び方練習（遊）、行進練習（遊）、研究保育、朝顔鉢植、擢み紙飛行機（手）、時計屋の時計（音）、紙芝居「虹の凱旋門」（談）、山本五十六元帥国葬遥拝式（十時五十分ラジオに従い遠く東の彼方に黙祷）、ハ・ホ・トの音名（音）、歌に合わせて玉回し鬼当て遊び（遊・音）、切り紙（手）、「雨」（遊）、防空演習ごっこ（遊）、時の記念日（談）、知能テスト人物画「男の人」（手）、ラジオ子どもの時間「時計の音あて遊び」、競争遊戯「三・四・五合同、ボートレース、さがしもの当て」（遊）、一の組で影絵「お山の防空演習」（談）、「三疋の子熊」（談）、ラジオ放送「金魚のお話」（談）、補欠幼児入園式（四人）、紙芝居「ピヨシチャンノオツクヒ（ママ）」「オムスビコロリン」（談）、蚕観察（観）、人体観察（観）、「先生」画（図）、「お舟」（遊）、朝顔（観・手図）、ハホト・ハヘイ聴覚訓練遊び（音・遊）、「蛍コイコイ」（音）、鬼ト山羊（談）、母の会会集参観、神話第二回「八俣の大蛇」（談）、公会堂園外保育（遊、談昨日のこと、・手図）、本校に伏見宮妃殿下台臨奉送、曲にあわせて駆足（遊）、輪抜き競争（遊）、ハホト音名取り遊び（遊音）、身体検査、観察談話ホタル（観・談）、皇太后陛下御誕辰祝賀式、ホタル擢み紙ハリ紙（手・音）、田植え観察園外保育、田植え観察印象画（手）、自由画観察（観）、既習練習事項、諸注意
7月	自由遊び（石をつたって鬼ごっこ・積木・ブランコ・砂場）、会集、乾布摩擦、観察談話「蚕」（観・談）、パン配給、花落し遊び（遊）、サガシモノ遊び（遊）、絵本コロンダ鬼の子（談）、絵本オムスビコロリン（談）、四人並んで歩き練習（遊）、自由画（手）、家庭(出席)通信簿配布、ラジオ体操、行進練習（遊）、七夕用ホゝヅキ作り（手）、ビオカルク服用、七夕笹つり（手）、支那事変勃発訓話（談）、「兵隊さんありがとう」（音）、七夕祭（音・談）、大詔奉載日（国旗掲揚）、支那事変記念日（国旗掲揚）、七夕祭印象画（手）、担任が休職中（一週間）にしたこと（自由発表談、体験画手）、水飴一瓶づつ配給、競争遊戯「イス取り」（遊）、ボート擢み紙（手）、アセモの出ている子に天瓜粉撒布、自由発表（談）、ハンカチ落し（遊）、砂場あそび（遊）、ハホト遊び（音）、体験画鑑賞、体験画再度完成へ、身体検査、自由画（手）、終業式、「よい子夏休み」プリント配布、既習練習事項、諸注意

〔注〕保育題材は、日を追って書き並べたものである。(　)内は項目である。(　)内に複数の項目が書かれているもの（例4月園外保育・５月鯉幟）については、園外保育は同日に実施されたものである。しかし、鯉幟については(　)内の最初の項目（遊）が日を追って実施されたものであり他の項目については後日に順に実施されたものであるが、同月の場合は、まとめて記載する。

防空訓練、整列・二列行進団体訓練、最敬礼練習、普通行進・爪立て・作円、軍艦マーチ、並び方練習、行進練習、曲にあわせて駆足、四人並んで歩き練習等の画一的・集団的・訓練的な活動が、主に行われていた様子がうかがえる。特に4月は、遊戯に関しては、「汽車」の集団遊び的な活動を除いてはすべてが画一的・集団的・訓練的な内容であるといっても過言ではないと思われる。また、5月以降になると、鯉幟・金太郎・おたまじゃくし・軍艦・雨・曲にあわせて駆足・舟等の歌やリズムにあわせて体を動かす身体運動的な活動や、宿替え・ボートレース競争遊戯・防空演習ごっこ・さがしもの当て遊び・輪抜き競争・花落し遊び・砂場あそび等の集団遊び的な活動が行われていたことがうかがえる。さらに、歌に合わせての玉回し鬼当て遊び・ハホトとハヘイ聴覚訓練遊び・輪抜き競争・ハホト音名取り遊び等の音楽の項目と複合的に取り扱われていたり、おたまじゃくしスクヒ等の観察の項目と複合的に取り扱われている様子もうかがえる。防空訓練・軍艦マーチ・軍艦から、当時の戦時色が感じられる。

音楽

例えば、4月では「君が代の練習、チューリップ、僕は軍人」、5月では「鯉幟、鳩、指の歌、おたまじゃくし、金魚のひるね、軍艦」、6月では「ハ·ホ·トの音名指導（全音符・二分音符）、ラジオ子どもの時間“時計の音あて遊び”、歌に合わせて玉回し鬼当て遊び（遊·音）、ハホト·ハヘイ聴覚訓練（音·遊）、蛍コイコイ（音）、ハホト音名取り（音・遊）、ホタル」、7月では「兵隊さんありがとう（音）、七夕祭（音・談）、ハホト遊び（音）」が題材としてあげられている。

このことから、季節や行事を考慮して、唱歌の題材が選択されていたことがうかがわれる。君が代の練習・僕は軍人・軍艦・兵隊さんありがとうの唱歌の題材から、当時の戦時色が感じられる。また、ハ·ホ·トの音名指導（全音符・二分音符）・ラジオ子どもの時間“時計の音あて遊び”・ハホト·ハヘイ聴覚訓練・ハホト音名取り・ハホト遊び（音）があげられていることから、音の聴覚訓練が重要視されていた様子もうかがえる。

談話

例えば、4月では「お話（椅子のかけ方・挨拶・話の聞き方・神様のおがみ方）、靖国ノミヤシロ（談）、桃太郎（談）、感興誘発昨日の体験花園の様子話し合い（談）」、5月では「鯉幟、端午の節句（談）、鯉幟とつばめ(談)、五月人形、蟻、おたまじゃくし、朝顔、神話第一回“天照大神”（談）、二艘舟に乗っていく姉弟の話（談）、蚕」、6月では「紙芝居“虹の凱旋門”（談）、時の記念日（談）、影絵お山の防空演習（談）、三疋の子熊（談）、紙芝居ピヨシチャンノオツクエ（ママ）、オムスビコロリン（談）、ラジオ放送“金魚のお話”（談）、鬼ト山羊（談）、神話第二回“八俣の大蛇”（談）、昨日のこと（談）、観察談話ホタル」、7月では「観察談話“蚕”、絵本コロンダ鬼の子（談）、絵本オムスビコロリン（談）、支那事変勃発訓話（談）、七夕祭、自由発表“担任休み中（一週間）にしたこと”（談）」である。

このことから、桃太郎（談）・鯉幟とつばめ（談）、神話第一回“天照大神”（談）、二艘舟に乗っていく姉弟の話（談）、三疋の子熊（談）・神話第二回“八俣の大蛇”等の物語や、椅子のかけ方・挨拶・話の聞き方・神様のおがみ方の躾の話や、靖国ノミヤシロ（談）・支那事変勃発訓話（談）等の訓話や、鯉幟、端午の節句・時の記念日（談）等についてのいわゆる説明的な話といった内容や、感興誘発のための体験の話し合い、昨日のこと、自由発表“担任休み中（一週間）にしたこと”等の自分のことを言葉で表現したり人の話を聞くといった内容が題材として選択されていたことがうかがえる。物語については、語り聞かせ（ストーリテリング）であったり、紙芝居“虹の凱旋門”・紙芝居ピヨシチャンノオツクエのように紙芝居を見せたり、影絵お山の防空演習のように影絵を見せたり、絵本コロンダ鬼の子・絵本オムスビコロリンのように絵本を見せたり、ラジオ放送“金魚のお話”のようにラジオを聞かせたりしていた様子がうかがわれる。さらに、観察談

話ホタル・観察談話蚕のように他の項目と複合的にとりあげられていた様子もうかがえる。

手技

例えば、4月では「自由画描き方（手)」、5月では「テストのための5分間鉛筆画“人”、節句印象画（鯉幟・五月人形)、兜折り（手)、鳩擢ミ紙、昨日（奈良公園園外保育）印象画(手)、軍艦描いて切る、自由折り方（手)、粘土第一回目（手)、自由積木（手)」、6月では「粘土軍艦（手)、擢み紙飛行機（手)、切り紙(手)、知能テスト人物画“男の人”、“先生”画(図)、朝顔画、公会堂園外保育“昨日のこと”印象画、ホタル擢み紙ハリ紙、田植え観察印象画（手)」、7月では「自由画（手)、七夕用ホゝヅキ作り（手)、七夕笹つり（手)、担任休み中（一週間）にしたこと体験画（手)、ボート擢み紙（手)、体験画再度完成へ、自由画(手)」である。

このことから、図画としては、自由な表現を主とした自由画、奈良公園園外保育や公会堂園外保育や節句（鯉幟・五月人形）や田植え等の印象画、担任休み中（一週間）にしたことの体験画、知能テストのための5分間人物鉛筆画が内容としてとりあげられていたことがうかがえる。題材として、自由画や印象画や体験画がとりあげられていることから、子どもの自発性や創造性が尊重されていた様子がうかがえるが、当時の状況から考えると題材の乏しさから自由画や体験画や印象画にならざるをえなかったのではないかとも思われる。

切ったり、折ったり、貼ったりという手技的な内容は、子どもの発達や季節や行事を考慮して選択されている様子がうかがえるが、七夕飾りについては七夕用ホゝヅキ作りのみが記されていることから、当時の状況から祭事を質素にという様子や材料の乏しさがあったのではないかと考えられる。粘土第一回目や粘土軍艦や自由積木から、教材として粘土や積木が使われていた様子がうかがえる。積木については、一度の自由積木のみの記載なので一概に言うことはできないが、恩物の扱い方というよりは、形式にとらわれないで自由に子ども達は扱っていたのではないかと考えられる。

観察

4月では「奈良公園園外保育、本校植物園園外保育」、5月では「鯉幟、五月人形、蟻、おたまじゃくし、奈良公園園外保育おたまじゃくしスクヒ、朝顔、蚕、軍艦、正倉院庭園外保育、花壇・動物舎の観察」、6月では「蚕観察、人体観察、朝顔、観察談話ホタル、田植え観察園外保育、自由画観察、7月では「観察談話蚕」である。

このことから、題材として自然や社会に関する内容が選択されていた様子がうかがえる。そして、朝顔については、5月の種まき・朝顔水やり・朝顔の観察・6月朝顔鉢植と、朝顔の成長にしたがっての活動の流れがうかがえる。おたまじゃくしについても、5月20日の日誌に「今日一匹オタマジャクシガ蛙にナツテトビ出シタ。子供達ノ喜ビハ又大変ダッタ」と記されていることから、おたまじゃくしの成長にしたがって観察されていた様子がうかがえし、蚕についても5月・6月・7月と題材として取り上げられていることから、継続的に観察していた様子がうかがえる。さらに、奈良公園園外保育、本校植物園園外保育、奈良公園園外保育おたまじゃくしスクヒ、正倉院庭園外保育、田植え観察園外保育のように、戦時下にあっても、自然や社会事象を観察することを目的として園外保育を積極的に実施していた様子もうかがわれる。

② 自由遊び

日誌に書かれている4月から7月までの自由遊びの内容は次のとおりである。

4月

砂場遊び・遊具の使用法・絵本の扱い方・絵本・鬼ごっこ

5月

スベリ台・サクラサクラの遊び・ママゴト遊び・遊戯・兵隊ごっこ・砂遊び・ブランコ・かけっこ・おたまじゃくし観察・朝顔水やり・裏山で遊ぶ・お客様ごっこ・絵本・蚕観察

6月

蚕に桑やり・アサガオ水やり・竹のぼり・絵

本・積木・軍艦作り・砂場・運動遊具・砂場トンネウ鉄橋・一拍飛び・擢み紙・草つみ・セミトリごっこ、神域清掃

7月

石をつたって鬼ごっこ・積木・ブランコ・砂場

以上の自由遊びは、登園後や午前中の課程保育後（続けて2項目の課程保育が行われて昼食までに時間のない時は行われていない）や昼食後に行われていた様子がうかがえる。雨の日以外は外遊びが主であったことから、戦時下において子ども達の体力を育てようとする様子がうかがわれる。6月24日の日誌に、「自由遊ビノ際ハセミトリゴツコナド子供達ハトビマハツテ遊ブ　デモ中々先生中心カラ子供中心ニト向上シテクレナイ」と記されていることから、一学期における自由遊びは教師中心型自由遊びであった様子がうかがえる。しかし、昭和19年2月2日の日誌に「自由遊ビニモ戦争ゴッコガ盛ンニ行ハレ女児モコレニ参加シテ空襲ニソナヘテノ救急袋マデ持出シタリスル」とあり、2月8日の日誌に「オ遊ビノトキハ・・一生懸命ニ活動シ存分遊ンデヰルコトガ感ジラレルガ・・」とあることから、当時の戦時色も感じられるが、子ども中心型の自由遊びが展開されていた様子がうかがわれる。

③ 会集

会集は、毎朝、登園後の自由遊びの後に、一日の活動のはじめになされる集まりである。「日誌」の4月の入園当初には、詳しく記されていることから（表1参照）、「日誌」の実際欄から例をぬきだしてみると、次のとおりである。

4月10日　土

9時半点鍾　ハホト分散音ヲ静カニ聞カセ、コレガナツタラ片付ケヲシテオ並ビノ準備ヲスルコトヲ教ヘル

會集　今日ハ昨日ヨリモ大分手數ナク並ベルラジオ体操ハ上ノ人達ノスルコトヲミセテイタダク

4月12日　月

廊下ニ整列シテ眞直ニ並ブオケイコヲスルシバラクシテ皆遊戯室へ　コヽデ會集．オ並ビ．神様ノオマイリ　御挨拶ヲスマセ気ヲ付ケ．ヤスメヲ稽古スル　終ッテ一度休憩シ年長組ノ行進遊戯ヲ見セテイタダク　ツヾイテ汽車．普通行進ナド稽古シ保育室へ帰ル

4月13日　火

會集ラジオ体操、行進ナド見セテ頂イタ後スコシ行進練習ヲシテミル．ヨナヨナ歩イテクルノモ可愛イイ

4月14日　水

會集、オ並ビモ大分上手ニ出来ルヤウニナッタ　ハジメテラジオ体操ヲ皆一緒ニ行フ．家デモスコシハシテヰルヤウデ大体ヨク出来ルガマダマダ細イ部分ノ指導ヲシテナクテハナラヌ行進モ皆ト一緒ニスル．追々正確ニ歩ケルヤウニ導カネバナラヌ

4月15日　木

會集ノトキ行進ヤ、行進中ノ集リナド何度モ練習シタノデミンナ大変ツカレタ様子ナノデスグ保育室ニ入ル

6月14日　月

會集ノ際小川先生カラミンナニコレカラ仲ヨク遊ビマセウトオ話頂キミンナツレダツテ保育室ニ帰ル

9月2日　木

會集ノトキモ浄謙先生ヨリ、敵機ガワカ（ママ）本土ヲ空襲シヨウトネラツテヰルトイフオ話ヲ頂キ空襲警報ノ出タトキモ御注意ヲ伺ウ

以上のことから、会集は、全園児を集めて、天気のよい日は園庭で、天気の悪い日は遊戯室で、毎朝行われていた様子がうかがえる。会集では、整列・神社参拝・挨拶・ラジオ体操・行進（行進練習）を中心に毎日行われていたようである。入園当初の整列では、直立姿勢・気をつけ休めの練習・整列練習が行われたり、日々行進練習・行進が行われていることから、画一的に訓練的な指導の様子がうかがえる。神社参拝については、昭和15年6月30日に皇紀2600年記念行事として園内に皇太神宮大麻奉齋殿が建設[8]されていることから、毎日この奉齋殿に参拝していたと考えられる。

また、6月14日の日誌からは、会集で補欠入園幼児の入園式が行われ小川主事先生からの話があったり、9月2日には空襲警報についての諸注意等がなされている様子もうかがえる。

④ 行事

日誌に書かれている4月から7月までの行事は以下のとおりである。

4月

入園式、本校奉安殿参拝(立派な幼稚園の子の誓)、身体検査（胸囲・体重・身長・座高)、靖国神社臨時大祭黙祷式、本校植物園園外保育、天長節祝賀式

5月

本校開校記念式、端午の節句会、若草山遠足(雨のため中止)、端午の節句会、奈良公園園外保育（おたまじゃくしスクヒ)、身体検査、海軍記念日（日章旗と日の丸を持って軍艦マーチ行進)、手向山八幡様・念仏堂参拝園外保育、正倉院庭園外保育

6月

山本五十六元師国葬遥拝式（十時五十分ラジオに従い遠く東の彼方に黙祷)、補欠幼児入園式（四人)、母の会参観（会集を参観)、身体検査、皇太后陛下御誕辰祝賀式、田植え観察園外保育

7月

七夕祭、身体検査、終業式

以上のことから、行事は、入園式・身体検査・園外保育・本校開校記念式、母の会参観、終業式等の園行事と、靖国神社臨時大祭黙祷式・天長節祝賀式・皇太后陛下御誕辰祝賀式・山本五十六元師国葬遥拝式等の国家的行事と、端午の節句会・七夕祭等の伝統的行事が行われていたようである。七夕祭について昭和13年度と比較すると、飾付けの内容や七夕祭に向けての一連の活動は非常に少ない様子がうかがわれる。また、3月20日の終了式も昭和13年度に行われていた卒業演技会は省かれていることから、園行事や伝統行事の祝事や祭事については、質素に行われていた様子がうかがわれる。園行事の身体検査については、毎月一回実施され、胸囲・体重・身長・座高測定されていたようである。園行事の園外保育については、積極的に実施されている様子がうかがわれ、卒園間際の3月15日の日誌に「公園ノ中ヲ通ツテ浮御堂ノ方ニ抜ケ、浅茅ヶ原デオベントウヲ頂ク．芝生ノ上ニヒツクリカツテ遊ブ・・」と記されている園外保育の様子に驚くばかりである。東京では昭和19年4月に幼稚園閉鎖令が出されている状況を考えると、戦時下にあっても、まだ穏かであった奈良の様子が感じられる。

⑤ 生活訓練に関するもの

生活訓練に関するものの4月から7月の題材は以下のとおりである。

4月

帽子掛・靴箱・机の位置指導、挨拶躾、当番神域の清掃、最敬礼練習、天長節祝賀式稽古、諸注意、既習練習事項

5月

神域清掃（大詔奉際日)、国旗掲揚（大詔奉際日・青少年御勅語御下賜きの記念日)、整列の稽古、朝顔種まき、昼食躾、遊園清掃、朝顔水やり、既習練習事項、諸注意

6月

朝顔鉢植、本校に伏見宮妃殿下台臨奉送、既習練習事項、諸注意

7月

国旗掲揚（大詔奉載日・支那事変記念日)、既習練習事項、諸注意

以上のことから、生活訓練に関することは、練習事項、挨拶躾・昼食躾等諸注意、神域の清掃・遊園清掃・朝顔水やり等の作業（仕事)、国旗掲揚・伏見宮妃殿下台臨奉送等の国家的事項にわけられるのではないかと考えられる。そして、昭和13年度と同様、この生活訓練に関する題材は、会集・課程保育・自由遊び・帰宅準備等の時間を利用して行われていた様子がうかがわれる。挨拶躾・最敬礼練習や神域清掃・国旗掲揚から、戦時下にあって、日本国民としての子ども達を厳しく躾ようとしていた様子がうかがわれる。

⑥ その他

その他の4月から7月の題材は以下のとおりである。

4月

ビオカルク服用、パン配給（週一回)

5月

ビオカルク服用、パン配給（週一回)

6月

乾布摩擦、研究保育

7月

乾布摩擦、パン配給、家庭(出席)通信簿配布、ビオカルク服用、水飴一瓶づつ配給、天瓜粉撒布（アセモの出ている子)、体験画鑑賞、「よい子夏休み」プリント配布、

以上のことから、その他としては、種々の配給、鑑賞、教生の研究保育等が見られる。食糧事情の悪さから、ビオカルクやパンや水飴が配給されたり、乾布摩擦や天瓜粉撒布等、幼稚園でも子ども達の健康を気遣う様子がうかがえる。そして、鑑賞や教生の研究保育が行われていた様子がうかがわれる。

おわりに

昭和18年度の奈良女子高等師範学校附属幼稚園の保育の実際をまとめてみると、一年間は3学期であり、一日の流れとしては、「登園―自由遊び―会集―課程保育（5項目）―自由遊び―帰宅準備―散園」、午後までの保育では、「登園―自由遊び―会集―課程保育（5項目）―課程保育（5項目）―昼食―自由遊び―帰宅準備―散園」、あるいは、「登園―自由遊び―会集―課程保育（5項目）―自由遊び―昼食―自由遊び―帰宅準備―散園」となっている。

保育の内容としては、昭和13年度での保育6課目（遊戯・唱歌・談話・手技・観察・図画）が保育5項目（遊戯・音楽・談話・手技・観察）と改められ、保育5項目を基盤として、自由遊び、会集、行事、生活訓練に関するもの等が行われていた様子がうかがわれる。そして、日々の保育では教師が中心となって画一的に指導していた様子がうかがわれる。特に会集では、画一的・訓練的な様子がうかがわれる。しかし、自由遊びでは、子どもの自発性や主体性が尊重されていた様子も見られる。昭和13年度と同様に、項目の複合的な取り扱いや、一題材の各項目の視点からの取り扱いや、植物の成長や行事にしたがっての一連の流れがうかがわれるが、取り上げられた題材は昭和13年度に比べて少なくなっている。昭和13年度にはほぼ毎日2項目の課程保育をしていたことから考えると、会集の時間が長くなったためと考えられる。

入園当初（4月26日）の日誌に、「奈良地方空襲警戒警報発令．ツヽイテ訓練空襲警報発令ニツキ、幼児ハ昨日休園ヲ通知シ．本日臨時休園トス」とある。しかし9月2日の日誌に、「昨夕警戒警報発令サレ今日モマダソノ状態下ニアツタガ幼児達ハ何等故障ナク全部揃ッテ出席シタ」と記されていることから、警戒警報が発令されると入園当初は休園になっていたが、それ以後は警戒警報が発令されても、通常どおり保育が行われていた様子がうかがわれる。当時の社会的背景から、保育の内容においても戦時色の濃さが感じられ、訓練的・画一的に保育されていた様子もうかがえるが、戦時下にあっても、子ども自らが育とうとする力を信じ、子どものすこやかな成長を願っての保育が行われれいた様子も垣間見られる。そして、なによりも、子ども達が幼稚園で楽しんで活動していた様子が伝わってくる。

小川正道主事（S16～27）の保育論と附属幼稚園の保育の実際との関係については、戦後の奈良女子大学附属幼稚園の保育の実際に期待し、今後の課題にしたい。

この研究は日本保育学会第57回大会で発表したものを、加筆修正したものである。資料を提供していただきました麻生武教授（奈良女子大学附属幼稚園元園長）と島岡尚子奈良女子大学附属幼稚園元副園長に謝辞を表します。

注および引用文献

1）高月教恵「奈良女子高等師範学校附属幼稚園の保育の実際（1）―昭和13年度四之組保育日誌を中心に―」新見公立短期大学紀要第24巻 2003　pp13－23
2）文部省『幼稚園教育百年史』ひかりのくに株式会社　昭和54年　p236
3）『子どもの姿をみつめて』80年記念誌　奈良女子大学附属幼稚園　1992
4）（3）に同じ
5）同上書
6）同上書
7）昭和18年度四之組保育日誌は、9月の終りから所々抜け落ちている部分がある。そこで、こ

こでは4月から7月の保育題材を、日を追って書き並べることとする。

8）うなゐのそのふ創立三十周年記念誌　奈良女子高等師範学校附属幼稚園　昭和17年11月

Summary

I considered practice of the infant education of the Kindergarten Attached to the Nara Women's Advanced Teacher-Training School through the infant education diaries in the year of 1943. I understood that the contents were the five items (play, music, conversation, handwork and observation), free play, meeting, events and life training. It is possible to see that the five items, meeting, events and life training were uniform education and training. But it is possible to see that the autonomy and the subjectivity of children are esteemed in free play.